

「首都と周辺」の地域社会学：授業計画

1. 授業の概要

地域社会学は、都市と農村の両方を連続したものとして理解しつつ、地域社会レベルの社会構造・集団編成ないし人間行動を明らかにしようとする学問である。そこで本講義では、日本の「首都圏」(Tokyo metropolitan area/ Greater Tokyo) と、「周辺」諸地域(北海道、新潟、九州など)に生起する地域問題を対比的に取り上げ、こんにち日本社会の基盤で起きている社会変動を理解することを試みたい。シカゴ学派的な首都圏の社会地区分析を出発点に、首都圏に関わるいくつかの話題を提供し、ついで新都市社会学的な視点も含みつつ「開発」をキーワードにして周辺部に話を広げていく。話のリアリティを確保するためにも、講師自身が調査した事例を中心に進めるが、結果として、ある程度「地域社会学概説」の役割も果たせればよいと思う。

2. 成績評価・履修要件・教科書

原則として中間レポート(50%)と学期末試験(50%)で評価する。履修要件はとくになし。教科書は指定せず、講義内容の理解を助けるものとして適宜ハンドアウトを配布。参考書は授業中に紹介。

3. 授業予定

回		内容	備考
1	10/5	イントロダクション	
2	10/12	都市と東京の文脈	一部「社会学基礎」と重なる
3	10/19	生活者の秩序	
4	10/26	郊外とはどこか	
5	11/9	CBD で何が起きているか	中間レポートについて説明
6	11/16	(前半予備日)	
(7)	11/30	中休み紙芝居: 「駆け出し社会学研究者、巻町に出会う」	出席は自由、試験にも関係せず
8	12/7	産業・労働・貧困と地域	
9	12/14	農村/田舎/地方とはどこか	中間レポート提出(評価の50%)
10	12/21	「開発」と地方政治	
11	1/11	「廃棄」と環境と農	

1 2	1/25	「まちづくり」はシステムを変えるか	
1 3	2/1	補論： 地域調査の方法	出席は自由、試験にも関係せず
(14)	2/5	おひらき紙芝居： 「ドメ社会学者のイギリス」	出席は自由、試験にも関係せず
1 5	2/8	最終試験	持ち込み可

3. 参考文献（都市・地域社会学の入門書）

地域社会学会編 2000『キーワード地域社会学』ハーベスト社

地域社会学会編 2006『地域社会学講座』（全3巻）東信堂

町村敬志・西澤晃彦編著 2004『都市の社会学』有斐閣

森岡清志編 2000『都市社会の人間関係』放送大学教育振興会

倉沢進 1999『都市空間の比較社会学』放送大学教育振興会

奥田道大編 1999『講座社会学4 都市』東京大学出版会

鈴木・高橋・篠原編 1985『リーディングズ日本の社会学7 都市』東大出版会